



# やまな

袋井市立山名小学校  
学校だより No.5  
令和元年6月10日発行

## 山名小学校統合50周年

### [6/3 朝会 高橋校長の話より]

今日の朝会では、山梨小学校と宇川小学校が山名小学校に統合された理由、山名小学校の校章の意味、山名小学校の校歌についての3つについてお話します。

#### 【学校統合】

昭和30（1955）年代、市内の各小中学校にプールを作ろうとする気運が生まれました。しかし、山梨小学校は、校地にプールを作るスペースがありませんでした。周りの小中学校には、次々、プールが完成し、プールがないのは山梨小だけになってしまいました。

一方、宇川小学校では子どもの数が年々減ってきていました。見通しでは、全校で6学級の小規模校になってしまうことが分かっていました。

そこで、昭和42年に両方の学校を統合して、新しい場所に校舎とプールを建設して、両方の問題を解決しようと言うことになりました。昭和43年3月には市議会でも新しい学校を作ることが決められました。昭和43年12月に新しい学校の名前を山名小学校と決めました。なぜ、山名という名前を選んだかは、その昔、山梨も宇川も「山名郷」と呼ばれていたからです。併せて、新しい校章も決められました。

昭和44年4月から山名小学校はスタートしました。スタートした時の子どもの数は、660名でした。しかし、校舎ができていないので、山梨小と宇川小の別々の校舎で授業をしていました。昭和44年7月に、まずプールが完成し、翌年の昭和45年9月から新しい校舎での授業が始まりました。その時の引っ越しには、延べ150台のトラックが使われました。

#### 【校章】

これが山名小学校の校旗です。この中に描かれているのが校章です。この校章は山名小という校名と一緒に、次のような意味が込められて決まりました。



の形は山梨の「山」を、ウは宇川の「ウ」を表す。



は若葉が萌え出し、すくすくと伸びゆく若々しくたくましい生命力を意味する。



は和と融合を望むものである。

運動会や卒業式で使っている校旗は、昭和44年に馬ヶ谷の小島久次郎様が寄贈してくださったものです。

## 【校歌】

学校が統合された当時、「集いの歌」は有りましたが、校歌はありませんでした。

昭和62年3月に統合から18年経って校歌が制定され、発表会が行われました。校歌の作詞を担当されたのは、静岡大学名誉教授で上山梨にお住まいだった石塚経雄先生、作曲は、浜松短期大学助教授で浜松市にお住まいだった浅野武先生です。

石塚先生は、作詞の趣旨を次のようにおっしゃっています。

子どもたちが、明るい希望に燃え、進んで学習や体づくりに励むなかで、すくすくと成長し、やがて国際性の豊かな、広い視野に立って人のために役立つ人になることを、目指してほしいと言う願いを込めて作詞をしました。

このあと、作詞に込められた願いを思いながら校歌を歌ってほしいなと思います。

## 【校内の様子】

### <緑の募金のお礼>

5月22～24日に園芸委員会が中心になり、緑の募金活動を実施しました。「緑の募金」は森林や緑を、市民の方々やボランティアの協力で守り育て、豊かな環境を未来に引き継いでいくための取組に役立てられています。3日間、多くの御協力をいただきありがとうございました。集まった募金は袋井市農政課に届けさせていただきました。

### <ヤマハ発動機ジュビロ選手等による学校訪問>

4日(火)に、ヤマハ発動機ジュビロ選手等による学校訪問が行われました。当日は、来校した2名の選手とラグビーボールを使っての簡単な動きをしたり、インタビュー形式による講話をしていただいたりして充実した時間を過ごすことができました。

## 【周南たちばな学園：施設分離型小中一貫教育】

袋井市では、「夢を抱き、たくましく次の一步を踏み出す15歳の育成」を目的とした幼小中一貫教育を進めています。本校を含めた周南たちばな学園では、「夢や希望を見出し、未来をひらく子どもの育成」を目標に掲げ、校区の職員は、次の3つの子どもの姿を目指して取り組んでいます。



周南中挨拶運動

○自分の力を発揮しながら、「かかわりあい」を通して新たな考えを創造する子ども(知)

※学習活動場面において、自分の考えを持ちやすくなるために「思考ツール」を活用し、「授業がわかる」子どもを増やし、学力向上につなげていきます。

○自他のよさに気づき、人や社会のために何ができるか考え実行する子ども(徳)

※生活習慣や徳育に関して、12年間を通して、一貫した指導体制のもと、身に付けていきます。また、校種を超えた様々なかかわりを通して、自己有用感を育みます。

○心身の健康を増進し、自他の命を守るために何ができるか考え、実行できる子ども(体)

※仲間とともに心と体を鍛え、子どもの表れに注視し、12年間を通した一貫した指導を行います。また、交通安全や防災について積極的に意識した生活を心掛けます。